

「平成30年度 第2回尼崎市産業振興推進会議」議事要旨

日時：平成31年3月25日(月) 午後3時30分～5時15分

場所：中小企業センター 4階 402会議室

1 出席者 (50音順)

<構成員>

尼崎工業会、尼崎商工会議所、尼崎信用金庫、尼崎経営者協会、尼崎公共職業安定所、尼崎労働者福祉協議会、株式会社日本政策金融公庫、関西学院大学、近畿経済産業局、甲南大学、産業技術短期大学、兵庫県阪神南県民センター、兵庫県立大学、流通科学大学

<事務局>

尼崎市、公益財団法人尼崎地域産業活性化機構

2 会議録

～事務局より資料に基づき説明～

- ・工場緑化の事例は、大企業だから出来たことで、中小企業ではなかなか難しい。中小企業にもどのように実施すれば良いか教えてもらう機会が必要ではないか。
- ・消防や緑化などは後回しになってしまう。それは、設備や場所、お金が必要になるからである。尼崎市としても何か支援策を検討して欲しい。会社がきれいになることで、社員も誇れるようになり、そこで働きたいと思う人も出てくると思う。
- ・尼崎経済白書の中に、尼崎城の話がコラムだけだったので、もう少し入れてもらえると良かった。テレビなどでも放送されていて、かなりの宣伝効果になっていると思う。これを機に、名物を作ればどうか。
→来年度は経済と観光が一緒の部署になる。尼崎城が出来ることにより、大きなビジネスチャンスでもあると思うので、頑張って取り組んでいきたい。
- ・施策を実施することで市として上手くいっているのか。
→前回の調査結果では、新設率も廃業率も全国を大幅に上回っていた。ただ、今回は新設率は全国と変わらないが、廃業率はさらに悪化している状況にある。そのため、事業承継については「企業の健康診断」等を実施している。
- ・事業承継については、大きく2つの問題がある。1つ目は、事業承継の重要性に早く気づいてもらうことであり、2つ目は、承継者の確保である。様々な機関が、事業承継のマッチングに取り組んでおり、承継者確保のためマッチングを増やしていくことが大切である。
- ・創業については、各種統計を踏まえると足元では減少に転じている可能性があり、以前のような右肩上がりではなくなってきたと感じている。これまで以上に、支援機関が連携して創業支援に取り組んでいくことが重要になってきている。
- ・人材確保の部分は、事業承継を子どもにするまでの間のつなぎの人を紹介して欲しいなどのいろいろな要望が出てくる。
- ・BCP関連では、訓練をさせる機会を会議所などで作ってもらえないか。また、どこへ避難するかなど徹底する必要があると思っており、広げていくことで事業の定着にも繋がっていく。

- ・「働く場の創出」について達成率 140%とはすごい成果が上がっている。
- ・また、若者向けの創業セミナーも実施しているが、創業までには至らないケースが多い。昨年はブラッシュアップステージを新たに設けるなど行っているが、会議所などの支援機関や大学等と連携し、ネットワークを作って支援することが必要だと思う。
- ・先日、テレビ大阪の方で関西の住みたいまちランキングで 5 位になった。それ以外にも住宅ローン会社が選ぶ住みやすいまちランキングで 1 位に選ばれ、尼崎城もオープンするなど非常に大きなチャンスだと捉えている。皆さんのご協力をいただきながら頑張っていきたい。
- ・『尼崎経済白書』は、白書にしてはすごく読みやすい内容になっているので、市民の人などに見てもらいたいと思う。
- ・尼崎に観光のイメージはこれまでなかったが、これから、関西ではラグビーのワールドカップの開催などのチャンスがあり、取り込んでいかなければいけない。例えば、農業にストーリーをつけて体験させてあげるなどを行うと良いのではないか。新大阪から少し来たところにおもしろい体験が出来るとなると閑空の待ち時間等を利用する人も取り込めるのではないか。そこで新しいコンテンツが生まれる可能性もある。
- ・昨年の 10 月から有効求人倍率が 1.7 倍をこえた状況が続いており、最新では有効求人倍率が 1.75 倍になっている。また、高校生については、阪神地域の求人倍率は 4.15 倍になっており、中小企業では新規高卒者の人材確保はなかなか厳しい状況が続いている。県内でも一番高い求人倍率になっているため、市内の高等学校卒業生の市内企業への就職割合が減少している。
- ・求職者は、ホームページを見ている。その時に給料より職場環境も見る若い人が増えている。例えば、従業員の笑顔の写真が会社のホームページに掲載されているだけでイメージが違う。
- ・賃金だけではなく、福利厚生を見ている人も多い。先程のデータを見ていると、知ってもらって見てもらうことが必要になると思う。
- ・中小企業は景気が悪い時はコストがかけられず、良い時は忙しくて他への取組が出来ないなどの課題がある。
- ・人材はマッチング以上に継続していくことが大切だと思う。その中で、会社が変わる必要があり、経営者が変わっていくという決心が必要になると思う。いくらマッチングしても取組を継続していかないと意味がない。
- ・事業承継のプラットフォームは学が入っているのか。事業承継の研究者はすごく多い。産学連携で取組む意義もあるのではないか。
- ・尼崎に農業があることは驚いた。小さい規模かもしれないが、六次産業化の可能性もあると感じた。大事なものは、足し算ではなく、農×商×工とかけていくことだと思う。
- ・事業を承継される側の人の中には、承継するだけではなく、新しい事業を立ち上げようとしているイノベーションに繋がるような芽を持っている人もいると思うが、先代や取引先との関係で出来ない人も多いと思うので、その芽を大切にすることが次につながっていくと思う。

- 一つの例になるが、大手の上場企業の取引先に経営をサポートしてくれる人を紹介してもらい事業承継を予定している。大手には、もったいないが役員にはなれない人材がいる。中小企業に来るなども1つの手法だと思う。
- 中堅や大手の会社も取引先が廃業するとサプライチェーンが崩れてくるので、大きな問題になる。中小企業だけではなく、大手にも周知していく必要があると思う。
- 他都市で BCP 関連のアンケートを実施したが、自由記入欄がすごく記載が多かった。災害の時に企業間連携が非常に役立ったと言う意見が多かった。危機的な状況では、知っている人（個人）に頼ることが大切になってくると言う意見もあった。
- 多様な人材活用がこれからのキーになると思う。
- 外国人の雇用も重要度を増している。大学でも海外から留学生も来ており、そのような方が日本の社会においてどのように活躍していくのが重要になると思う。恐らく、中小企業が多い尼崎では、外国人の労働者を仲間としてまちの発展に繋げていくことが必要であろう。
- 働き方改革の中で、次の4月から34万人の外国人が入ってくる。それについてくる家族や子供もいる。やはり人口減少傾向の中で、非常に大きな転換期になると思う。それを地域としてどのように活かしていくのが重要になる。
- ものづくりの尼崎で言うのは難しいかもしれないが、ものを効率的に作っていた社会から、ものに組み込まれている情報をいかに生み出していくのかという社会に転換している。それがまさにイノベーションであり、尼崎が直面している課題であり、日本が直面している課題だと思う。その中で、突破口を開くために、中長期的な観点から考えて事例などを生み出す必要がある。

以上